

第3回 刈谷市都市計画マスタープラン・緑の基本計画策定委員会 議事録

1 日 時

令和2年1月15日（水）午後3時00分～4時00分

2 場 所

刈谷市役所5階 502会議室

3 出席した委員 14名

委員長：瀬口哲夫

委 員：磯部友彦、高井智幸、豊田信昭、吉岡実（代理：久松勇輝）、正木卓、早川孝二、深谷晴紀、加藤京子、近藤真理、三浦光世、片山貴視（代理：伊藤俊司）、小嶋幸則（代理：栗田雅樹）、稲垣政行

4 欠席した委員 3名

委員：河内利夫、加藤保広、吉田永子

5 事務局

中村課長、石黒課長補佐、小川係長、林主任主査、稲岡主事、田中技師

6 傍聴者

1名

7 公開・非公開の別

公開

8 議題

- (1) 前回までの内容確認
- (2) 緑の将来像と施策の体系について
- (3) 計画の目標について

質疑

《議題（1）について》

（資料2-1：前回までの内容確認-第4章 基本方針-1 緑の基本方針）

【委員】

「緑をグリーンインフラとして捉え」と書いてあるが、緑だけがグリーンインフラではなく、自然環境がグリーンインフラである。緑の基本計画なので緑が中心になるが、少し広げておいた方が良いと思うので、文章は「緑を中心とする自然環境をグリーンインフラとして捉え」の方が良いと思う。

【事務局】

法改正の大きな影響もあり、こういった緑を活用していくところを視点として入れていきたいと思っているので、表現を変えることで、より分かりやすくなると思う。

《議題（２）について》

説明（資料 2-3：緑の将来像図と施策の体系について）

【委員】

街路樹が果たして本当に役に立っているのか等の課題がある。道路は遠くまで何もない空間なので、道路から見える緑など、沿道の緑も活用した道路景観を考えて欲しい。

今回、新しい取り組みとして民間活力を活用したいとあるので、いろんな企業の力を借りながら行えば良いと思う。

【委員】

河川の南北軸（境川軸）は市の西の端にあるが、個々の拠点を繋ぐことができる軸は、河川軸ではなく道の軸として捉えていった方が良いと思う。点が公園という拠点だけで、それをネットワーク化される軸が現時点での計画では足りていない。現行計画の将来像図をそのまま転載してほしいというわけではないので、今ある課題を検証しつつ、緑の軸は道の部分についても将来像図の中に入れるべきだと思う。また都市マスの中にも言葉的には道の軸というのも表記しているので、整合性が取れるように将来像図にも道の軸が表記されると良いと思う。

バリアフリーの問題で、木はどうしても大きくなり、限られた空間の中で保全していこうとすると根っこが浮き上がったり葉が落ちたりということはある。他市の事例では体系化した限られた空間の中にあるものは、街路樹の並木道の再整備事業など、大きくなりすぎて弱ってしまった木を若木に植え替えて緑を保全していくやり方を選択している自治体もある。そういったものを活用しながら軸は保全していくという整備をしてもらえれば、大きくなったからやめるという話にもならないので、その辺りを検証・反映してほしい。

【委員】

限られた予算の中で維持管理をしているので、切っていく木もあると思う。今話にあった市の基本計画の中でも位置付けていければと思う。

【委員】

東側に緑の軸をつくらうとすると、中央分離帯を広くして木を並べるのが基本にあり、さらに広い幅員の歩道を積極的に緑化してもらえると嬉しい。

前回の意見でハナミズキ通りや桜並木通りをつくるという話があり、回答は在来種を使うとなっていたが、アメリカハナミズキは外来種で、ハナミズキに似た在来種がある。同じ白い花が咲くなら在来種を使うなど、幅広く対応してもらえれば納得してもらえと思う。

【委員】

鉄道の沿線にはスペースがないのか。

【委員】

スペースはあるところにはあると思うが、植えてしまうと台風等で倒木したり、安全上問題があるところがあるので、維持管理が大変である。大きな木は伐採しているのが実態である。

【委員】

掛川市の新幹線の沿線は、緑の視認性を高めて、綺麗に緑化している。名鉄の敷地の中や隣接した工場の敷地の中、民地など色々あると思うので、車窓から見えるまちの景観も計画に入れ込んで

ほしい。グリーンインフラという言葉は、緑の軸・緑の拠点・緑のエリア・民地の緑といったものを全てひっくるめているので、刈谷市全体・公共用地・民地を緑にしていきたい。緑化率など法的なこととも考えていくと、市内の緑も増えると思う。

【委員】

電車の話があったが、バスでは何か緑に関する考えがあるのか。

【委員】

バスは公道を走っているのですが、植栽を植えると道路が狭くなったり、枝が飛び出ると、大型車両としてはミラーに接触する恐れもあるので、あまり積極的に緑を増やすという話が出ない。またバス停に近付く時に、枝が飛び出るような植え方をされてしまうと接触してしまうといった問題もある。バスから見える刈谷市内の景色が、緑を植えることで、お客様から刈谷市は綺麗だと思ってもらえるので、歩道などに緑を植えてもらうのは良いことだと思う。

【委員】

名古屋と金沢を結ぶ名金急行線は高速バスなので、沿線に桜を植えたという話を聞いた。名鉄から刈谷市に要求してもらい、名鉄のメインのバス路線（例えば知立から刈谷）に桜を植えて、桜を名鉄から寄付してもらおうということがあると、とても楽しいと思う。このような話を生かしてほしい。

【事務局】

いただいた意見の中で、鉄道もバスも車中から見るという発想は面白いと思った。道路の街路樹と捉われるのではなく、見えるということを含めて軸を設定していけると良いと思う。

【委員】

長島温泉の方へ向かう長島線を使う高速バス路線があるが、春は 23 号線から長島温泉への道に桜並木があるので、運転手をしていて気持ち良かった。春になると運転していても楽しかったので、お客様もそう思うのではないかと。車窓から緑が見えるというのは良いことだと思う。

【委員】

歩道や道路に木を植えるのは良いことだと思うが、災害の時によく倒れていたりすると、植えても大丈夫なのかと考えてしまう。通学路に倒れていたりすると特にそう思う。

【委員】

倒れる原因は強剪定のしすぎである。剪定しすぎると中に空洞ができる。民地に植えて枝を広げると根が同じくらい張るのでなかなか倒れない。管理が大切である。

【委員】

美しいものを求めると管理が大変。刈谷市の公園も綺麗に剪定されて美しいところは問題ないが、木が大きくなりすぎたり、落ち葉が沢山落ちている等、もう少し管理をした方がよい公園もある。木を植えて美しくしたいのであれば、きちんと管理する体制を整えておかないと、がっかりする。

担当された業者によるかもしれないが、椎の木屋敷は全然きれいではない。刈谷市美術館は常にきれいに剪定されている。このように美しくないと木を植えている意味がないと思うので、しっかり管理してほしい。

【委員】

関心の高い市民の団体や住民が、剪定するときに意見を言う等、参加のあり方を考えれば、たかめる緑・まもる緑に繋がっていくと思うので、ぜひ意見を取り入れて欲しい。

《議題（3）について》

説明（資料 2-4：計画の目標について）

【委員】

確かに緑地面積を増やすことは難しい。プラスの方に目標を持っていきたいが、緑地の考え方が多様化されているので、色々なものを組み合わせてプラスにならないか。

【事務局】

法改正においても、緑地のカウントの仕方は見方が変わってきたというのもあり、今の意見を踏まえながら整理をしたい。

【委員】

民地で空き家が出た時、そこを壊したあと、民有地だが緑にしておくことがある。そういう制度はどこかでできないのか。持っている人が放置して空き家になってしまったから壊してしまう。そこに芝等を敷いて市民が使えるようにすれば、空き家が増えるよりはいいのではないか。

【事務局】

市の取組として、空き地を芝にして開放する等のことは行っていない状況である。取組としては公園が不足する地域等に住民の要望も踏まえて公園整備を行い、緑地を創出している。空き地等が出た場合には、そこを使えるように市民緑地認定制度があるので、このようなことも要素として入れていきたい。

【委員】

土地を活用して、一時的でも良いから緑にして使ってもらいたいと思う。日本は緑地が少ない。ロンドンは周りが全部公園だが、管理が大変とは言っておらず、非常に綺麗である。そのような都市をつかってほしい。

【委員】

今の話に関連しているが、刈谷市の緑地面積が空欄になっているのは、おそらく計画的に進めている拡大市街地や工業団地の話があるからだと思う。まちづくりと広い面で言えば、まだまだ計画的な拡大は市にとって必要である。結果的に、農地や既存の緑で新たに評価できるような場所が一部緑化されるとはいえ、緑の形態は変わったとしても 1 対 1 にはならない。それがおそらく何十 ha の単位であるので、小さい数字を積み重ねてもトータルで見ると減ってしまうことは理解できる。

総数で評価してしまうと下がって見えるので、1つ1つの緑を丁寧に評価できるように、市民緑地を含めた民有地の緑化も施策的には取り込まれようとしている等、見える化の数値にしたほうが良いと思う。

細かい目標が見つらいようであれば、緑地全体が減っていく速度を補うことが出来なくても、増やすスピードは上げていくような指標を考えてもらい、頑張っていく部分を評価として捉えられるような数値を出してほしい。このままの指標を工夫しても難しいと思う。

緑被率についても同じなので、場合によって、緑被率は数値目標から見送るという考え方があってもいいと思う。

【委員】

グリーンインフラと言っているので、概念を広げた場合の緑地はどうなるか考えても良いと思う。それらを入れて、もし緑被率が下がるとしたら、例えば「平らな屋根が何万 ha あるので、全部緑化したら何%になります」くらいの勢いで、屋上緑化を積極的に進めると良いのではないかな。

また、今の話を聞くと、まもる・つくる・たかめる・つなぐ、の目標の順番を変えた方が良いと思う。たかめる緑は、都市公園・公園緑地を整備する予定があるので、確実に増えている。市街地は土地利用の関係で変わるところがあるので、減少する緑地がでてくるかもしれない。その場合、代償行為をしっかりしてカバーしないと、今持っている刈谷の緑の良い条件が少し失われるかもしれない。そのバランスを考えた方が良いのではというのが、今お聞きした皆さんの意見だと思う。

緑地についてだが、逢妻川が都市計画緑地になっているが、それをもう少し猿渡川や境川の方に都市計画緑地をつくる可能性はないのか。全体をもっと緑地にできたらいいと思う。

【事務局】

進めていきたいと思っているが、今逢妻川の緑地の部分で未整備区間もあるので、まずはそこから進めていきたい。

【委員】

緑化重点地区も、数が多い都市と少ない都市で何が違うのかを聞いたら、名古屋市の答えが「事業が追い付いてないから」だった。数が多いところは、事業ではなく、それぞれの住民が緑化重点地区を守っていくようなルールをつくっている。必ずしも事業がなければ都市計画緑地にできないわけではないような気がする。2級河川なので県と調整が必要かもしれないが、事業が無くても覚悟していくという姿勢があると良いと思う。

【委員】

P-PFI とは、どのようなことを言っているのか。

【事務局】

民間が公園に収益施設を設置して、その収益の一部を公園整備に還元することにより、公園を充実させていく取組である。

【委員】

久屋大通公園の場合は、民間業者がカフェや小さいスケートリンクを作って稼ぎ、利益のうちいくらかを公園整備に充てている。財政の持ち出しが少なく、公園が活性化して皆さんが楽しめる P-PFI 制度を活用していて、その制度を活用した公園整備を刈谷市でも検討しているところである。

以 上